

ホワイトペーパー



Oracle Database サポートを 最大限活用するために

Rimini Street[®]

目次

概要	3
Oracle Lifetime Support Policy	4
Oracle Virtualization Support Policy	4
Oracle Databaseリリース分析	5
Oracle Database 11.1とそれ以前のリリース	5
Oracle Database 11.2リリース	6
Oracle Databaseライセンスがすべてのリリースで 考慮する必要のあるオプション	8
独立系保守サポートの主なメリット	8
高価で、時代遅れのソフトウェアベンダーのサポートモデル	9
問われるベンダーのサポートモデルの公平性と妥当性	9
高コスト、価値を見い出せない保守費用がイノベーションを制限	9
Oracle Databaseのセキュリティ上の懸念	10
次のステップ: 様々なサポートプロバイダーから選択可能	11
よりよい選択肢: Oracle Databaseライセンスが リミニストリートを利用するメリット	11
Databaseライセンス	11

概要

30万件以上のインストール数を誇るOracleは、SAPの顧客の間でも主流のデータベースとして認められています。成熟し、安定感のあるデータベースで、ビジネス要件をサポートする以上の機能を備えています。問題が生じることはまれなので、Oracleに関してサポートチケットが発生することはほとんどありません。

しかし、Oracle Databaseの顧客の多くは悩みを抱えています。まず、データベースの運用、保守、アップグレードコストを含む総所有コスト (TCO) が高いこと。次に、パフォーマンス、可用性、セキュリティについて常に懸念が解消されないことです。最後に、仮想環境におけるOracle Databaseに対するOracleサポートポリシーには制限があるため、多くの企業ではOracle Databaseを仮想化できていません。

このホワイトペーパーは、Oracle Technology製品用のOracle Lifetime Support Policy (仮想化されたOracle Databaseのサポートに関するポリシーを含む) を要約するものです。Oracleの年間保守に基づいてOracle Databaseの特定のリリースを利用している顧客向けに戦略的ロードマップの分析を行い、最後にOracle Databaseライセンサーが実行可能なよりよい選択肢を提示します。以下の主なポイントを紹介します：

- 現在の機能豊富なデータベースリリースからアップグレードしても、投資収益率 (ROI) は限られています。
- 独立系保守サポートを活用することで、保守費用と関連コストを削減し、大幅に経費を節約できます。
- 現在のOracle Databaseリリースを使って、今後数十年にわたって事業を行うことができます。
- 独立系保守サポートを使うと、リスクが低下し、新しいテクノロジーの選択肢が広がります。

リミニストリーの独立系保守サポートは、Oracle Databaseに対するOracleのサポートに置き換わるもので、高額なアップグレードを迫られることなく、ベンダーによる保守費用の総額を年間50%、10年間では最大90%節約することができます。

Oracle Databaseライセンサーは、大幅なコスト削減、確実に迅速なサポート対応、プレミアム機能、リスクの低減が望めるリミニストリーの独立系保守サポートを選択しています。なぜなら現在、数百社にも上る世界の一流企業が、独立系保守サポートを選び、すでに成功を収めているからです。

¹ 2019年 IOUG Database in the Cloud Survey

Oracle Lifetime Support Policy

Oracleは、有機的に開発・取得された様々な製品ラインで、サポートポリシーを標準化してきました。このポリシーは、現在「Oracle Lifetime Support Policy」²として知られ、ほとんどすべてのOracle製品に共通するサポートポリシー、価格、タイムラインを設定しています。標準化にはメリットもありますが、Oracleは標準的なLifetime Support Policyに、例外を設けたり、逸脱することについて交渉に応じることに消極的です。

Oracleの標準的なLifetime Support Policyには、次の3つの段階があります：

- Premier Support: Oracleの標準的なサポート。通常、有効期限は一般提供 (GA) から5年間で、ライセンス料金の22%の費用がかかります。また、しばしば毎年の更新で値上がりします。
- Extended Support: 1年目は、Premier Supportの費用+10%、2年目と3年目はさらに+20%がかかります。バグ修正に制限が設けられ、相互運用性アップデートや第三者プラットフォーム認証へのコミットメントが低くなります。Extended Supportは、Premier Supportの終了後3年間継続でき、常に提供されるわけではありません。
- Sustaining Support: Premier Support期間中に、修正プログラム、アップデート、クリティカルパッチアップデート (CPU) が作成されます。Sustaining Supportでは、新しいアップデート、修正プログラム、セキュリティアラート、データ修正、CPU、新製品の認証が、除外されます。費用は当初のライセンス料金の22%で、無期限で続きます。

Oracle Virtualization Support Policy

Oracleは、第三者ベンダーにより仮想化されたデータベースに対するサポートも提供していると謳っていますが、現実にはそれほど説得力がありません。Oracleは、次のように表明しています。「Oracleが根本的な問題の原因がOracleの製品ではないこと、あるいはOracleにサポートされていないコンピューティング環境で実行されていることを特定した場合、Oracleはさらなる支援については顧客にVMwareを紹介し、問題を解決するために必要に応じてVMwareをサポートします。」³このため、ベンダー間では、顧客が必要なサポートを受けられなかったり、データベースを仮想マシンに移行することを控えたりして、利害が対立することになりかねません。



「リミニストリートは、堅牢で応答性の高いデータベースサポートと、コスト削減のメリットをもたらすことで、その競争力を実証しています。リミニストリートとのパートナーシップがベースになり、私たちは積極的にイノベーションを推進し、お客様により大きな価値を提供することに取り組むことができます。」

Bumtae Lee氏、

ゼネラルマネージャー、
クラウドインフラテクノロジーグループ
現代起亜自動車



HYUNDAI

² Oracle Corporation, Oracle Lifetime Support Policy, Oracle Technology Products, 2020年6月

³ <https://blogs.vmware.com/apps/2019/10/oracle-on-vmware-support-policy-changes-oct-9-2019-metalink-note-249212-1.html>

Oracle Databaseリリース分析

リリース	GAの日付	Premier Supportの終了	Extended Supportの終了	Sustaining Supportの終了
8.1.7	2000年9月	2004年12月	2006年12月	不定
9.2	2002年7月	2007年7月	2010年7月	不定
10.1	2004年1月	2009年1月	2012年1月	不定
10.2	2005年7月	2010年7月	2013年7月	不定
11.1	2007年8月	2012年8月	2015年8月	不定
11.2.0.3以前	2009年9月	11.2.0.3以前のリリースでは、Oracle Terminal Patch Policyに従って、バグ修正、パッチ、CPU/SPU、PSU、BPを受けることができなくなります*		不定
11.2.0.4	2009年9月	2015年1月	2020年12月**	不定
12.1.0.1	2013年6月	12.10.1では、Oracle Terminal Patch Policyに従って、バグ修正、パッチ、CPU/SPU、PSU、BPを受けることができなくなります*。		不定
12.1.0.2	2013年6月	2018年7月	2022年7月	不定
12.1 SE および SE1	2013年6月	2016年8月	利用不可	不定
12.1 SE2	2015年9月	2018年7月	2022年7月	不定
12.2.0.1	2017年3月	2020年11月	2022年3月31日まで、Oracle Error Correction Policyに従って、重大度1の生産修正プログラムとセキュリティ修正プログラムに限定されます。	不定
12.2.0.2 (18c)	2018年7月	2021年6月	利用不可	不定
12.2.0.3 (19c)	2019年4月	2024年3月	2027年4月	不定

図1: Oracle Database Support Dates by Release 出典: Oracle Lifetime Support Policy, Coverage for Oracle Technology Products、2020年6月
<https://mikedietchde.com/2018/07/30/clarification-support-periods-for-oracle-12-2-0-1-and-18c/>

**Market Driven Support for 11.2.0.4 は、重大度1についてのみ追加料金を支払うことで利用可能です。

Oracle Database 11.1とそれ以前のリリース

Oracle Database 11.1またはそれ以前のリリースを使用している場合、すでにSustaining Supportの対象となっているため、フルサポートを受けられません (Oracle 12.1 Standard EditionとOracle 12.1 Standard Edition 1のユーザーも同様)。多くのユーザーは、これを「サポート解除」段階と呼んでいます。Oracle Databaseの顧客の74%は、Sustaining Supportを受けるインスタンスを複数所有しています。⁴

驚くべきことに、Oracleの顧客は古いパッチや修正プログラムに対して、ライセンス料金の22%を未だに支払い続けています。Oracle Database 11.1以前のリリースのユーザーは、次の重要な点を検討する必要があります。

- ユーザーはSustaining Supportに限定されているにもかかわらず、データベース自体には非常に満足しています。当初のライセンス料金の22%は、CPUを提供しない、あるいは問題に対して新たな修正を試行しようとさえしないサポートサービスに支払われています。これでは、実質的に価値はありません。
- Oracle Database 19cへのアップグレードは非常に複雑です。また、マルチテナンシーという疑問の残るメリットを提供していることを除けば、19cにビジネス上の価値はほとんどありません。リリースレベル8、9、10.1から19cへのアップグレードは複雑な2段階プロセスで構成され、11gにアップグレードする中間段階が必要になります。リミニストリートは、機能が本当に必要になるまで、19cへのアップグレードを延期することを推奨しています。

⁴リミニストリート調査レポート「The Hidden Truths about Oracle Database Support」、2017年

Oracle Database 11.2、12c、18c、19cのリリース

Oracle Database 11gは、堅牢な機能を提供する非常に安定した製品で、ほとんど問題が発生しません。11.2パッチセットに関して検討すべき要素を、次に挙げます：

12.1.0.1、11.2.0.3、およびそれ以前のパッチセットを実行している顧客にとって重要な検討事項：

- 11.2.0.3以前のパッチセットを実行している場合、リリース11.1と同様の状況に置かれています。技術的にはSustaining Supportの対象ではありませんが、このリリースではOracleの「Error Correction Policy」に従って対象範囲が限定されています。具体的には、2015年8月28日以降、バグ修正、パッチ、CPU/SPU、PSU、BPは提供されていません。⁵
- 12.1.0.2の前の12.1.0.1も似た状況にあり、OracleのTerminal Patch Policyに基づいて、バグ修正、パッチ、セキュリティアップデート、アラートを受け取ることができなくなっています。
- つまり、保守料金を全額払い続けているのに、利用できるのは古い修正プログラムだけであり、新しい問題が生じると業務が危険に晒されることになります。

11.2.0.4、12.2.0.1、18cを実行している顧客にとって重要な検討事項：

ビジネスの混乱や経済的な不安に直面したとき、最も回避したいのが不要な出費です。残念なことに、Oracle Databaseを稼働しているユーザーにとって、2020年は不要なコストが多く発生する年になりそうです。その理由は次の通りです：

2020年末までに、Oracle Databaseの顧客インスタンスの94%が、Oracle Sustaining Supportの対象となる予定です。⁶これは、次のことを意味します：

- 新しいアップデート、修正プログラム、セキュリティアラート、データ修正、クリティカルパッチアップデートのいずれも提供されない
- 新しいアップグレードスクリプトが提供されない
- Oracleや第三者の新たな製品やバージョンが認定されない⁷
- 11.2.0.4は、2020年12月末にOracle Sustaining Supportの対象となる予定
- 12.2.0.1は、2020年11月末にOracle Sustaining Supportの対象となる予定 (Oracleは、2022年3月31日までの制限付きエラー修正期間を発表⁸。ただし、対象となるのは、重大度1の修正プログラムとセキュリティのみ)。
- 18cはOracleによって「短期リリース」が割り当てられ、⁹制限付きで導入可能。さらに、短期リリースのため、フルサポートは2021年6月に打ち切られる。
- 18c以前のリリースのいずれについても、次の点を検討する必要があります：
 - アップグレードのプロセスが複雑。アップグレードを開始する前に、アップグレードの結果として予想されるROIを独自に検証する必要がある。

⁵ <https://mikedietrichde.com/2018/07/30/clarification-support-periods-for-oracle-12-2-0-1-and-18c/>

⁶ 2019年6月1日時点で94% - <https://www.brightworkresearch.com/oracle/2019/06/01/what-percentage-of-oracle-customers-are-on-what-oracle-database-version/>

⁷ Lifetime Support Policy, Coverage for Oracle Technology Products, 2020年6月

⁸ Ibid.

⁹ Ibid.



「パッケージソフトウェアの保守モデルは崩壊しています。ソフトウェアベンダーが恣意的に定めた、年間18%や22%というソフトウェアの「ライセンスの価値」に従って延々とアップグレードを繰り返し、ベンダーに見返りを与えるのはやめましょう。」

Vinnie Mirchandani氏

Deal Architect



「リミニストリートへのサポートに移行する理由は、実際に効果があり円滑に機能するからです。肩透かしなほど問題が起こらない。それにしっかりとサポートを受けることができる。主導権を握り、お金も節約できる。信じられないほどよい話です。」

Mark Wikingstad氏、
CIO
UCI International

Oracleから提供されていないデータや仮定に基づいて、アップグレードに関する堅実なビジネスケースを取締役会に提示できますか。多くの人が強力なビジネスケースの証明に苦戦しますが、これは極めて重要なステップです。アップグレードを進めるという決断を下す際には、デューデリジェンスが必要です。これがないと、より戦略的な問題に注力するための能力やリソースが制限されてしまいます。

さらに、Oracle Supportをやめることを選んだ場合は、最新のリリースとパッチセットをアーカイブできるので、ビジネス上採算が合うタイミングでアップグレードすることができます。

19cを実行している顧客にとって重要な検討事項

19cは、最新かつ最高のリリースで、Oracleでは広く普及することが期待されています。19cをすでに稼働している場合には、次の点を検討してください：

- Oracle Databaseサポートのチケットを確認してください。実際にどの程度の頻度でサポートが必要ですか。Oracle Supportを保険契約のようなものと捉えているかもしれませんが、その高額な契約料に本当にそれだけの価値があるでしょうか。
- 19cをすでに使用しているユーザーは、その内容に今後5年以上は十分に満足すべきです。Oracleが重要な新機能をリリースし、顧客のビジネスにROIをもたらす可能性は低いと言えます。

Autonomous Database 機能に関する注意事項

Oracleでは「Autonomous Database」の導入を宣伝していますが、18cと19cは自律型とは言えません。「Autonomous Databaseとは、Oracle Database 18c（および19c）の上で稼働するクラウドサービスであり、パフォーマンスと可用性のSLAを提供する追加サービスも含まれています。」¹⁰

- **自律型機能:** Oracle Public CloudまたはOracle Cloud@Customer上のAutonomous Database Cloud Serviceのサブスクリプションとしてのみ利用可能です。
- **ベンダーの囲い込み:** 一度Oracle Cloudを利用すると、特にサポートに関する選択肢が制限され、Oracleの高コストの保守サービスやクラウドサービスに縛られてしまいます。
- **制限された機能:** 「Oracle Database Enterprise Editionにあるすべての機能が、ADB(Autonomous Database)で使用できるわけではありません。」¹¹
- **制限されたプラットフォームとインフラストラクチャー:** 地域によってはご利用いただけません。¹²

¹⁰ <https://sqlmaria.com/2017/11/02/oracle-autonomous-database/>

¹¹ <https://www.oracle.com/database/technologies/datawarehouse-bigdata/adb-faqs.html>

¹² <https://www.oracle.com/cloud/data-regions.html>

Oracle Databaseのライセンシーがすべてのリリースで考慮する必要のあるオプション

SustainingSupportを使用している場合、めったに使用されず、ほとんど価値がないであろうサポートに、ライセンス料金の22%以上も支払い続けることになります。

独立系保守サポートへの移行 – リミニストリートのクライアントには、重要なすべてのサポートリクエストに10分以内に対応するPrimary Support Engineer (PSE) が割り当てられます。(実際の平均応答時間は、5分以内です。) 当社のPSEは、Oracle Databaseの技術面および機能面の専門家チームと緊密に連携しています。この即時応答サービスは、年中無休でご利用いただけます。リミニストリートでは、後日、解約時に権利を有していた最新リリースにアップグレードするオプションも維持することができます。しかし、アップグレードは、お客様の戦略的ロードマップに関するOracleのアジェンダで優先順位が高いという理由だけではなく、ビジネス上の意義がある場合にのみ実施するのが賢明です。Oracle Databaseから、PostgreSQL等のオープンソースデータベースへ移行しましょう。

独立系保守サポートの主なメリット

Oracle Database向けのリミニストリートの第三者保守へ移行するライセンシーには、次のようなメリットがあります。

- **コスト削減:** Oracleの年間保守料金を50%節約し、5年、10年、15年あるいはそれ以上であっても、好きなだけ現在のデータベースリリースの使用を継続することができます。
- **深い専門知識:** Oracle Databaseライセンシー向けのリミニストリートのサービスには、Oracle Database製品のすべての要素とコンポーネントを対象とした、次のようなサポートが含まれています。
 - Active Data Guard
 - Application Express
 - Data Masking
 - Database Diagnostics and Configuration Center
 - Database Vault
 - Enterprise Manager
 - In-Memory Database Cache
 - OLAP
 - Partitioning
 - パフォーマンスチューニング
 - Real Application Clusters (RAC)
 - Warehouse Builder
- **追加費用のかからない、エキスパートによるデータベースアドバイザリーサービス:** リミニストリートによる独立系保守サポートにより、ベストプラクティス、構成、ハードウェアに関して、当社の戦略的サポートサービスのエキスパートによるコンサルティングを受けることができます。これにより、相互運用性、セキュリティ、最適なシステムパフォーマンスが確保されます。
- **データベース仮想化サポート:** 問題の所在にかかわらず、リミニストリートはお客様と協力して問題を診断し、責任の所在を追求するのではなく、解決策を追求します。

Oracle Databaseの顧客の概要:

世界的な物流企業

業種: 運輸・流通

収益: 20億ドル (約2,200億円)

社員: 3,700名

Oracle Database 8.1、9.2、10.2、11.2

同社はOracle Database サポートのためにリミニストリートを選択し、年間保守費用を50%削減しました。

追加料金のかからない、専門家によるパフォーマンスの問題領域の診断、根本原因の分析、システムパフォーマンス復元のためのアクションプランは、システム使用量が増えるにつれ、同社に大きなメリットをもたらしています。さらに、コストの節約によって、資金やリソースをより戦略的な取り組みに再配分することができました。

*日本円は1ドル110円で算出



「かつてはOracleサポートに費やしていた予算を活用して、素晴らしい最新のアプリケーションを作成することができました。そのおかげで既存のお客様に喜んでもらい、新規顧客にも積極的にアプローチできるようになりました。」

エグゼクティブディレクター、
ITグローバルインフラストラクチャー
およびサポート部門、
世界的な物流企業



「リミニストリートへの切り替えは、当社に大きなメリットをもたらし、何よりITコストを削減できました。迅速に判断して良かったと思います。

当社のビジネスを成長させるためにすべての従業員が全力を尽くしてくれるサプライヤーと仕事をするのは、これまでにないことでした。」

友岡賢二氏、
常務執行役員兼CIO
フジテック株式会社

FUJITEC

- **セキュリティに関してお客様に合わせた総合的なアプローチ:** Oracle Databaseのユーザーの74%が、1つ以上のCPUサイクルに遅れが出ていると述べています。¹³ CPUサイクルは、パッチが実際に適用されるまで(Oracleの最終的なパッチリリースが完了するまで)、6か月から1年以上継続します。Oracleによるパッチの適用が行われな脆弱性も存在します。CPUに依存する企業は脆弱です。リミニストリートでは、セキュリティに対する総合的なアプローチの導入をサポートすることで、継続的にパッチを適用することなくデータベースの安全性を維持できるように導きます。
- **Oracle Databaseのアップグレードを先送りにするオプション:** リミニストリートのOracle Database製品向け保守サポートに移行すると、ビジネス上採算が合うタイミングでアップグレードを実施できます。これは、当社がお客様と協力して、アップグレードを必要とするアップデート、パッチ、スクリプト、ドキュメント、ファイルを特定し、アーカイブするからです。

高価で、時代遅れのソフトウェアベンダーのサポートモデル

問われるベンダーのサポートモデルの公平性と妥当性

大手ソフトウェアベンダーは、自社製品のサポートサービスを事実上独占しています。現在のサポート業務の利益率が90%とすると、ベンダーに支払われる10ドルあたりに付き、ベンダーが実際のサポートに費やすのは1ドルに過ぎません。企業は、ベンダーのサポートモデルは良くて時代遅れ、悪ければ陳腐化したもので、ソフトウェアライセンスにとって非常に不公平であるという結論に至りつつあります。

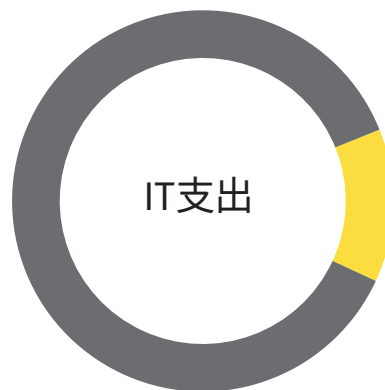
業界アナリストも同意: 企業は、ソフトウェアの年間保守サポートに費用をかけ過ぎているが、見返りとして得られている価値は限定的になっています。継続的に必要な保守および運営コストは、通常、IT予算の大部分を消費し、ビジネス変革の取り組みに回すことができる予算は10%に過ぎません。¹⁴

高コスト、価値を見出だせない保守費用がイノベーションを制限

IT支出カテゴリー*

90%

現行システムの
維持と拡張



10%

ビジネス変革の
推進

¹³ IOUG – DBA—SECURITY SUPERHERO、2014年 IOUG Enterprise Data Security Survey.

¹⁴ Gartner社、「Gartner IT Key Metrics Data, 2018 IT Enterprise Summary Report」、2019年12月。

Oracle Databaseのセキュリティ上の懸念

Oracleの従来のパッチモデルは、多くの人から時代遅れで、非効率的だと考えられています。これは、パッチは不完全で、公開されるのが遅く、適用に時間がかかり、企業システムの脆弱性が数か月、時には数年にもわたって放置されるからです。ベンダーのソフトウェアパッチを適用するには大規模なダウンタイムと人材が必要なため、企業の多くは、パッチの適用を一切実施しないか、実施したとしても、年に一度、休暇シーズンに実施しているというのが実情です。

前述のとおり、顧客データベースのインスタンスの大部分は、セキュリティアップデートの提供されないOracle Sustaining Supportに移行しているか、間もなく移行します。Oracle Databaseの調査によると、Oracle Databaseライセンシーの74%が、ベンダーからOracleセキュリティパッチを受け取っていないインスタンスがすでに存在すると回答しています。¹⁵

さらに、Aberdeen Groupによると、¹⁶従来型のベンダーのパッチ適用には、次のような問題があります：

- **パッチが利用可能になるまでに時間がかかる:**脆弱性が公開されてから、ベンダーのパッチが利用可能になるまでには、かなりの時間差がある場合が多く、多くの企業システムが数か月にもわたって脆弱性に晒される場合があります。
- **対応範囲が限定的:**1年以内にベンダーのパッチ適用による対応を受けなかった既知の脆弱性は、42%にも上ります。
- **煩わしさ:**ベンダーが提供したセキュリティパッチの適用には多くの時間が必要で、適用により業務の混乱が生じます。そのため、多くの企業がパッチの適用を先延ばしにしたり、結局あきらめてしまったりしています。
- **高いコスト:**調査データによれば、100個のデータベースインスタンスを持つ中堅企業では、従来型のベンダーのセキュリティパッチ適用モデルにかかるビジネスコストの平均は、約400万ドル(約4億4千万円)です。

*Rimini Street Advanced Database Security*などの仮想パッチの適用ソリューションでは、従来型のソフトウェアベンダーのパッチ適用に比べて、データベースライセンシーがデータベースの保護に必要とする時間は短縮されます。多くの場合、仮想パッチの適用は、従来型のベンダーのパッチ適用と比べるとより包括的で、効率性、速さ、安全性に優れ、適用も簡単です。企業における脆弱性が保護されるまでの時間が短縮され、生産システムに影響を与えることなく費用対効果の高いソリューションが提供されます。

*日本円は1ドル110円で算出

⁵リミニストリート調査レポート「The Hidden Truths about Oracle Database Support, 2017年

¹⁶ Aberdeen Group 「Beyond the Patch: Reducing the Risk of Database and Application Vulnerabilities」 2016年10月、およびAberdeen Group 「Virtual Patching and Database Security: An Effective Compensating Control」 2013年4月



仮想パッチの適用は、保護されているリソース以外のポリシー適用ポイントであり、脆弱性の悪用がターゲットに到達する前に特定し、封じ込めます。これは、非常に効果的な補完コントロールです。

仮想パッチの適用とデータベースセキュリティ:

効果的な補完コントロール

Aberdeen Group, 2013

次のステップ: 様々なサポートプロバイダーから選択可能

よりよい選択肢: Oracle Databaseライセンサーがリミニストリートを利用するメリット

数百社にも上る世界の一流企業が、自社のニーズと予算にベストマッチする年間サポートプロバイダーを選択しています。

リミニストリートの独立系保守サポートは、ベンダー提供の年間サポートプログラムに置き換わるものです。リミニストリート提供のプレミアムサポートを利用すれば、今後10年間以上はアップグレードを必要とせずに、コスト効率よくOracle Databaseの運用を続けることができます。Oracle Databaseライセンサーがリミニストリートの独立系サポートを選択する理由:

- **大幅なコスト削減:**リミニストリートは、ベンダーの年間保守費用を50%削減することを保証しています。
- **対応が迅速で、企業の状況に応じた最先端のサービスモデル:**リミニストリートでは、極めて迅速なサポート対応と、セキュリティ、相互運用性、パフォーマンスのサポートといったプレミアム機能を追加料金なしで提供しています。
- **戦略的柔軟性の向上:**リミニストリートでは、高額なアップグレードを行わず、現在の安定したデータベースリリースの寿命を延ばすことができます。さらに、新たに実績のあるテクノロジープラットフォームを導入する際のリスクを低減します。

節約額の試算:年間保守費用が50%削減されるのは、氷山の一角に過ぎません。アップグレードの回避と、保守の効率化によって自身の会社にもたらされるその他のコスト削減については、次のページで簡単に試算できます。

www.riministreet.com/jp/savings-calculator.

多くの組織では、アプリケーション戦略の重要な側面として独立系保守サポートを使用し、それによって節約したコストを再配分して、システムに関わるビジネス上の重要な問題に対応しています。また同時に、新しいテクノロジーを、ベンダーのリリーススケジュールやアジェンダに従うのではなく、自社のペースで評価しています。

データベースのライセンサー

以下は最近の米国Gartner社の所見です。「第三者による保守サポートは、もはや一般的ではないとも、許容範囲を超えたリスクとも見なされなくなりました。ますます多くの購入者が、カスタムコードのサポート、相互運用性サポート、グローバルな税制、規制、セキュリティサービスなど、第三者保守サポートプロバイダーが提供する付加価値の高いサービスを認知しています。」¹⁷

このホワイトペーパーでは、ベンダーのサポートの利用に伴う非常に現実的な問題、つまり費用、最適とは言い難い対応、迫られるアップグレードについて指摘しています。そのような問題の多いルートを選ぶ代わりに、次のような優れたメリットをもたらすリミニストリートの独立系保守サポートをご検討ください。

- 年間保守料金を50%削減
- 現在のリリースの価値を最大限に活用。安定感のある確立されたデータベースの寿命を延ばし、ビジネス的価値のないアップグレードを回避します。また、ベンダー解約後も、ご希望に応じて、リミニストリートのサポートの下でOracle Databaseを最新版にアップグレードすることができます。
- 独立系保守サポートによって得られた節約費用の活用。継続的なイノベーションや、絶え間なく変化するビジネス要件など、システムにまつわる現実のビジネス上の問題に対処します。
- データベースのセキュリティ向上。データベースメモリを監視および分析し、試みられた攻撃を、仮想パッチを適用してデータベースに到達する前に阻止することで、既知および未知の脆弱性からデータベースを守ります。

リミニストリートでは、Microsoft SQL Server、SAP HANA Database、SAP Sybase (SAP Adaptive Server Enterprise (ASE)、SAP SQL ANYwhere、SAP IQ、SAP Advantage DB Server)、IBM Db2に対する極めて迅速なサポートも提供しています。

Oracle Databaseサポートを最大限活用する方法について詳しくは、

www.riministreet.com/jp/contact-us、またはcontactjp@riministreet.comへお問い合わせください。

¹⁷ Gartner Predicts 2020: Negotiate Software and Cloud Contracts to Manage Marketplace Growth and Reduce Legacy Costs



Rimini Street

日本リミニストリート株式会社

〒163-1030東京都新宿区西新宿3-7-1

新宿パークタワー N30階

電話 03 5326 3461

Fax 03 5326 3001

contactjp@riministreet.com

www.riministreet.com/jp

リミニストリート (Nasdaq: RMNI) は、エンタープライズソフトウェア製品とサービスのグローバルプロバイダーであり、OracleおよびSAPのソフトウェア製品に対する第三者保守サポートにおいて業界をリードしており、またSalesforce®のパートナー企業でもあります。リミニストリートは、エンタープライズソフトウェアライセンスにおいて、大幅にコストを削減し、イノベーションのために資源を自由にし、より良好な業績結果を達成することが可能となる、プレミアムで、非常に応答性が高い、統合型のアプリケーション管理およびサポートサービスを提供しています。業界を問わず、フォーチュン500のグローバル企業、中堅企業、公共セクター組織等を含む顧客が、信頼できるエンタープライズソフトウェア製品とサービスのプロバイダーとしてリミニストリートにサポートを委託しています。

© 2020 Rimini Street, Inc. All rights reserved. Rimini Streetは、米国およびその他の国におけるリミニストリアートの登録商標です。Rimini Street、Rimini Streetロゴ、およびその組み合わせ、その他TMの付いたマークは、リミニストリアートの商標です。その他のすべての商標は、それぞれの所有者の財産権を構成するものであり、別段の記載がない限り、リミニストリアートは、これらの商標保有者またはここに記載されているその他の企業との提携や協力関係にあるものでも、またそれらを支持しているものでもありません。この文書はRimini Street, Inc. (「リミニストリアート」)により作成されたもので、Oracle Corporation、SAP SE、または他のいかなる団体によっても後援、承認、または関係付けられたものではありません。書面で明示的に規定されている場合を除き、リミニストリアートは一切の責任を負わず、商品性や特定の目的に対する適合性を黙示的に保証するなど、提示された情報に関連する明示的、黙示的、または法的保証はいたしません。いかなる場合でもリミニストリアートは、この情報の使用または使用が不可能な事態によって生じる直接的、間接的、結果的、懲罰的、特別的、または付随的損害のいずれに関する責任を負いかねます。リミニストリアートは、第三者により提供された情報の正確性または完全性について一切の表明または保証を行わず、当該情報、サービス、または製品について随時変更する権利を有します。A4-JP-101420